上矢作小学校だより

【学校の教育目標】たくましく　すこやかな　上矢作の子

大船山

第　８　号

令和５ 年 ７ 月 ２０ 日

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ　http://www.ena-gif.ed.jp/kamiyahagi-e/

自分でチャイムを鳴らす自律的な生活づくりを

校長　　細江　幸次

今日で６９日間の１学期が終わり、明日から３８日間の夏休みが始まります。３８日間のうち、家族と楽しく過ごしたり、地域等のイベントに参加したりするような楽しみな日がいくつかあると思います。でも、それ以外の大半は自分の立てた夏休みの計画に従って過ごすことになります。

子どもたちの学校生活は学級の仲間に囲まれた集団生活です。仲間に囲まれた生活はある意味緊張もするし、自分の弱い(楽をしたい、さぼりたい　等)姿を見せられない、いわばややストレスのかかる緊張した生活ともいえます。そして、チャイムによって自分の行動が制限され、担任の先生から指示を出されて動きが決まっていく他律的な生活です。しかし、夏休みの生活はこれらがほぼ０(ゼロ)になります。つまり、やることを自分で考え、順番を決めることができます。仲間や先生の視線も気にする必要はありません。もしかしたら、自分の好きなことや楽なことばかりをやって、やりたくないことはやらなくてもその時は特に何も困らないかもしれません。夏休みはこのように自分のやりたいようにやれる、自律的な生活に切り替わっていきます。

家族の一員としての役割、自分の特技となることを見つける・磨く、健康づくり・体力づくりに励むことも夏休みならではの取組ですね

しかし、ここで自分の好きなことや楽なことだけをやって夏休みを過ごしたとしたらどうなるか想像してみてください。やりたくないことをやらないまま過ごしたらどうなるでしょうか。今はまだ幼い小学生ですが、いずれ社会へと巣立っていく日がやってきます。若い頃は一人暮らしをする子もいると思います。また、どこで生活をするにしても、一社会人として全員が自立した生活をしていかなければならなくなります。いわば長期の休みの生活は、その時の助走期間であるともいえると私は考えています。それじゃ、それに向けてその助走をいつから始めるか？それは、「今でしょ！」(ちょっと古いか。)人間はそんなにすぐに変われるものではありません。来るべき日に備えて、少しずつ準備を重ねていくことが最善の手段ではないかと思っています。学年に応じて少しずつ自分一人でできることを増やしていく、そんなところを子どもたちがお家の方と話し合いながら過ごしていけるといいですね。

上矢作っ子の活躍

＊恵那市歯科医師会　歯の優良児童　6年　市岡芳國

＊恵那市学校保健会　歯の優良賞　　6年　小林幸永、大島夏衣